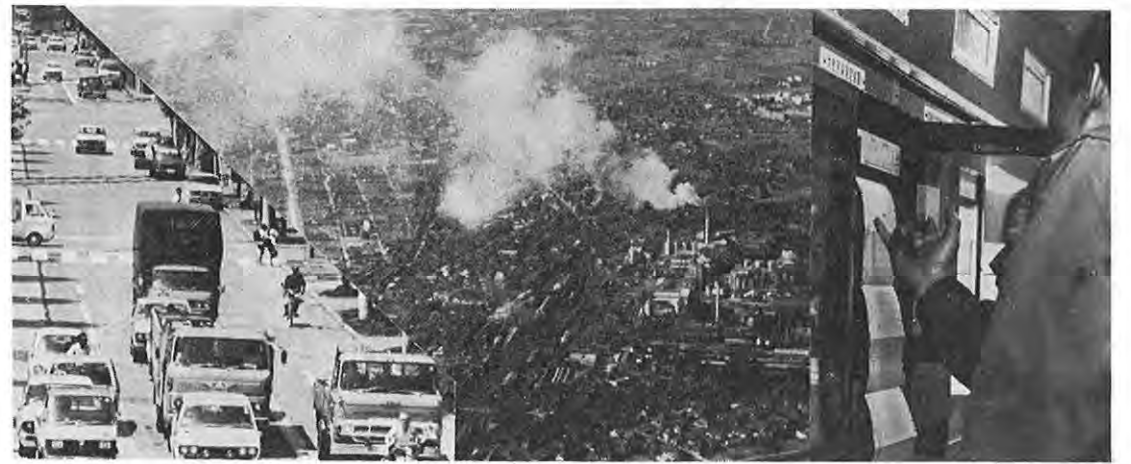


大気汚染・水質汚染・騒音の実態

— 47年版熊本県の公害白書 —



水俣病の新たな進展は、多方面に大きなショックを与えた。本県はすっかり公害先進県となっている。この汚名返上のためにも、県民の方々に本県の各種公害の実態等を充分認識してもらうため、先に公害対策局が刊行した公害白書から、大気汚染、水質汚染、騒音等の調査結果と県の施策等を紹介することとした。

□ひろがる環境汚染と公害行政

昭和三十年以降の技術革新、石炭から石油へのエネルギーの転換等産業構造の变化に伴い、大気汚染、水質汚濁など生活環境の破壊は加速度的に、しかも広域に広がり、権利意識に目覚めた国民の不平不満は、苦情、陳情となって顕在化するようになった。

本県における行政の目標をみても、総じて国の経済政策に呼応して工業生産の増大をはかり産業構造の高度化につとめることであった。しかし、現在では「経済開発にとどまらず人間尊重のうえに立った社会開発にその重点を指向する」方向に県政の指標を修正しなければならず、これまでの計画を見直し新たな観点に立った基本構想の策定がなされているところである。

公害行政の面において、国では昭和四十六年七月一日から環境庁を発足させて公害行政の一元化を図り、昭和四十五年十二月の第六十四国会で制定・改正された公害関係各法も昭和四十六年度におい

て次々に施行され、実質的な指導・規制が行なわれるようになった。本県においても、従前企画部に属していた公害課を衛生部に移し、開発行政との分離を図り、また衛生研究所を衛生公害研究所に改称し、調査、研究等の機能の強化が図られた。

一方、本県の公害の現状は、大牟田市の影響を受ける荒尾市、都市公害のきざしを見せている熊本市、その他化学工場、塗料、紙・パルプ、繊維などの工場が立地している宇土市、八代市、水俣市、田浦町などで大気汚染、水質汚濁、悪臭が現われており、その他の地域でも局地的な騒音公害や畜産業など一次産業関連の事業に伴う悪臭による被害が発生している。これらの複雑多様化する公害事例の一部改正も行なわれた。

このように、本県の公害行政は時代の要求に応じて県民の健康を守り、快適な生活環境を保全するため県政の重要課題

として推進されつつある。本県には、公害病の原型と言われる水俣病があるが、今後二度と公害にむしばまれて苦しむ人を出してはならないし、その尊い代償を

□大気汚染の現状と対策

1 大気汚染の現状

四十六年度はいおう酸化物、降下ばいじん、浮遊粒子状物質および風向き風速について県下四十地点において調査を実施した。とくに大牟田市の工場群からの影響により大気汚染が進行している荒尾市については、四十六年十月大牟田市と共同でテレメーターシステムによる監視測定網を設置し常時監視体制を整えた。

払っている本県としては先んじて美しい明日の熊本をきずくために公害行政に取り組んでゆかなければならない。

法では荒尾市より少ないにもかかわらず二酸化鉛法では高い値を示しているのは、工場周辺の測定点に局地的に高い値が出現したためである。全般的に見て減少の傾向を示しているが、それは僅少で、また徐々である。

降下ばいじん

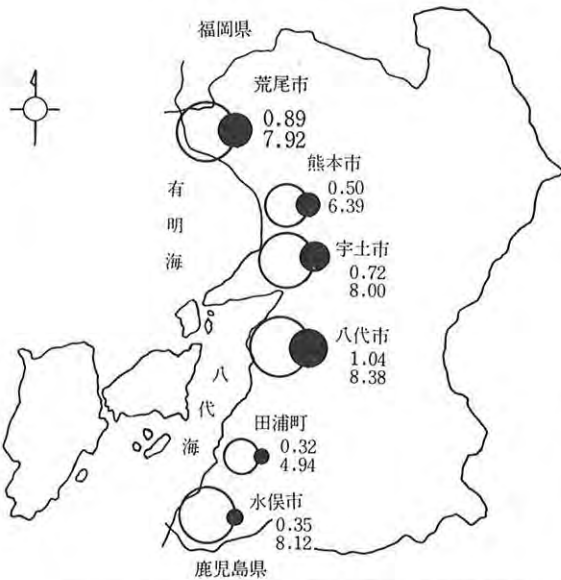
降下ばいじんは、デボジットゲージ法により荒尾市ほか四十五地点で調査を実施した。地域別に年平均量を比較すると、宇土市、田浦町が横ばい状態から若干増加しているほかは、いずれも減少している。八代市が八、六七トンと最高で水俣、荒尾、宇土、熊本、田浦の順で水俣市の減少がとくに目立っている。全般的に見て降下ばいじんは、年々減少の傾向を示しているが、主要工業地域が未だ上位にある。

浮遊粉じん

浮遊粉じんは、テーブる紙法を用いる

導電率法によるいおう酸化物の測定結果によると四十六年度の地域別年平均値は、荒尾保健所〇・〇二八PPm、八代総合庁舎〇・〇二二PPm、水俣保健所〇・〇一六PPmでいずれも環境基準に適合している。二酸化鉛法では、八代市の年平均量は四十五年より減少はしているが、一、一六ミリグラム/日と最高であり、ついで荒尾市の〇・八九ミリグラム/日、以下宇土市、水俣市、田浦町の順となっている。八代市の場合導電率

いおう酸化物濃度分布図
降下ばいじん等



● いおう酸化物濃度 PbO₂法単位(SO₂mg/100cm³/日)
○ 降下ばいじん量 単位(t/km²/月)

註 数字は全測定地点の46年度年平均量で
上欄いおう酸化物、下欄降下ばいじん

自動車排出ガス

県下の自動車保有台数は、毎年増加しており、今後もこの推移は続くものと思われる。このような近年の目ざましいモータリゼーションの進展は、都市部において交通量増加、交通渋滞を誘発し、排出ガスによる大気汚染が進行し社会問題となっている。

また、自動車から発生する騒音は都市における生活環境に大きな影響を与えている。四十六年度は県の公害測定車みどり号によって熊本市ほか主要都市十七地点で調査を実施した。